

〔研究ノート〕

2002 W杯とメディア言説
テレビと新聞はW杯をどのように伝えたか（日本編）ファン ソンビン*
中村 綾**

本稿は、2002 W杯をメディア・イベントの観点から捉え、日本国内の地上波放送、新聞によるW杯報道の全体像を明らかにすることを目的とし、まずは、地上波テレビ放送の試合中継、番組編成の概要、そしてテレビの典型的なW杯関連のメディア言説として、「ザ・ワイド」のヶ月間の放送内容の特徴および概要を整理した。また、新聞については、社説欄と投稿欄の全一覧を作成し、論調の違いを、「W杯の意味」「ナショナリズム」「日韓関係」に焦点を絞って整理した。また、読者投稿欄についても同様の問題意識をもって紹介した。

キーワード：メディア・イベント、メディア言説、W杯、日韓関係、ナショナル・アイデンティティ、ナショナリズム

はじめに

FIFA（国際サッカー連盟）ワールドカップ大会（以下、W杯）は、世界で最も人気の高いスポーツ・イベントであり、全世界のテレビ中継の延べ視聴者数はオリンピックを凌ぐといわれる。FIFAの発表によると、2002年大会のテレビ放映は、ほぼ全世界の213カ国・地域に及び、放映時間は単独のスポーツ・イベントとして過去最高の41,100時間に達したという。2002年の大会は、「21世紀初、アジア初」というだけではなく、史上初めての2カ国による共同開催であった。共同開催が決まった1996年以降、

日韓両国のメディアはワールドカップを大々的に取り上げ、国民的な関心を高めてきた。新聞報道やテレビの中継およびスポーツ関連番組だけではなく、むしろテレビのワイドショーやスポーツ紙、大衆雑誌などにおいて、実に多種多様なワールドカップ関連のメディア言説が作られていた。

本稿の問題関心は、W杯そのものではなく「W杯をめぐるメディア言説」にある。それはメディア・イベント化した現代のスポーツにとっては、各種のメディアを介して語られる/表象されること（representation）は、なんら副次的な現象ではなくむしろ中心的な意味を持っている（阿部潔，1999）と考えるからである。オリンピックやW杯のようなメディア・イベン

* 立命館大学産業社会学部助教授

** 立命館大学大学院社会学研究科博士前期課程

トには、人々に強烈な共有体験をもたらし、「われわれ」としての集合的アイデンティティを強化し、他者との境界を確認させる作用も指摘されている（Dayan & Katz 1992）。とりわけ、W杯の場合は「ナショナルな」性格の強いイベントといえよう。オリンピックが選手個人の競技であり、各国の選手団が一つの選手村で生活しながら、国境を越えたコスモポリタンの理想が掲げられているのに対して、W杯では、各国の代表チームはそれぞれのキャンプ地で戦いに臨むというスタイルをとっており、あくまでも国家あるいは民族対抗の戦いであることが前面に出される。こうした国家や民族の戦いとして語られるメディア言説については、さまざまな人種や民族、国家などに関するステレオタイプ化されたイメージの強化という観点だけではなく、むしろそのような他者像との対比において、「われわれ」すなわち自国・自国人の自画像をも浮き彫りにしてしまう働きにも注目が必要であろう。

こうした問題意識の下で、われわれは、日韓両国のメディアのワールドカップ報道を、日韓比較の観点から分析・考察することを目的として研究プロジェクトを立ち上げた。主要な比較のポイントは、「W杯」とは何か（ワールドカップの意味づけ）、両国のメディアは、お互いの「W杯」をどのように伝えたか、そして一連のワールドカップ報道に見られる日韓両国の他者認識、両国における「日韓関係論」の伝え方（ワールドカップ共同開催は「日韓関係」にどのような影響を与えるのかについてのメディア言説）、ワールドカップにおける「危機」、「脅威」の構成（例：「フーリガン問題」の伝え方）であった。

以上の研究問題について、両国の地上波テレ

ビチャンネルのW杯関連番組（ニュース、企画番組など）、主要日刊紙、スポーツ紙、大衆雑誌などについて質的内容分析の手法を用いて調査を展開してきた。さらに、一連のメディア言説についての人々の反応（読み）を探るために、数十人規模の深層インタビューも実施した。これまでの研究成果は、文末の成果リストにあるように発表してきたが、本稿ではこの研究プロジェクトの成果報告の一部として、日本国内の主要日刊紙およびNHKと民放のテレビ番組編成の概要を紹介する。

1 テレビ

1-1 試合中継

2002 W杯は、全64試合のうち、日本戦、欧州、南米の代表チームのカードを中心に40試合が地上波テレビで放送され、全試合を放送したのは、CSデジタル放送の「スカイパーフェクトTV」のみであった。

まずは、こうした異例の放送体制に至った経緯について整理する。従来、FIFAは、W杯のテレビ放映権契約を、サッカーの世界的普及のために、ITC（国際公営放送連合事業体）と結んできたが、2002年大会より落札方式に変更した。その結果、1996年にドイツのメディア複合企業キルヒと、スイスのスポーツマーケティング会社ISL¹⁾が連合して、2002年大会のテレビ放映権（アメリカを除く）を最低保証13億スイスフラン（当時約1140億円）で購入した。2006年大会を15億スイスフランであわせて購入する荒業であった。1998年フランス大会の約200億円と比べると桁違いの巨額である。その後、キルヒとISLの連合は、キルヒが欧州地域、ISLが欧州以外の地域への販売を代

理したが、この全世界への切り売り方式により、W杯のテレビ放映権は高騰した。

日本においても、国内の権利交渉が難航し、結局、従来のNHK単独放送方式を諦め、NHKと民放連がオリンピック放送と同様にJC(Japan Consortium: ジャパンコンソーシアム)を結成し、最終的には、40試合の地上波およびBSハイビジョンの放送権、全64試合のラジオ放送権を獲得した。一足早く、「スカイパーフェクトTV」も放送権を獲得し、日本国内に二つの放送権所有組織が存在するという前例のない大会となったのである。

JCとしては、民放のセールス見通しやNHKとして負担できる金額など、JC全体としてのあり方を勘案した上で、63億円(推定)で全64試合中40試合の放映権を獲得し、民放4割NHK6割の配分、予選の日本戦放送の割り振りなどが決まった。試合の振り分けは、実際の放映権料の負担比率(NHK6割、民放4割)にあわせて、NHKが24試合、民放16試合となった。

試合の振り分けは、まず主要7試合、つまり開幕戦、決勝戦、準決勝2試合、日本戦予選3試合については、NHKと民放のトップ会談で、民放が日本予選2試合と準決勝の計3試合、NHKが日本予選1試合と開幕戦、決勝戦、準決勝1試合の計4試合を放送することを決めた。それ以外の33試合についてはドラフト会議のような一定の指名順に則って振り分けた。「NHK - 民放 - NHK - 民放 - NHK」の順にくじ引きを行い、33試合のうち、20試合をNHKで、13試合を民放で放送することが決まった。

次に、民放内部の割り振りについてである。民放の放送分になった16試合のうち日本戦

の予選リーグ2試合が含まれており、公平を図るために日本戦をとった2局(フジテレビ系、テレビ朝日)は3試合しか放送できないが、取れなかった2局は4試合を放送できる仕組みが採用された。また、地上波放送では民放放送分の日本戦予選2試合と決勝トーナメント5試合の計7試合は、全国で視聴できるように系列を超えた全国フルカバー体制を敷いた²⁾。なお、全体の放送チャンネルについては、文末の表を参照されたい。

一方、135億円(推定)で全試合放映権を獲得したCS(通信衛星)放送の「スカイパーフェクトTV」(2002年3月時点加入者数304万2千件)での放送は以下のような基本方針の下で行われた。

- ・基本10ch(瞬間最大11ch)の専用チャンネルと設定し、視聴方法は無料放送とする。
- ・全64試合の生中継を行い、国際信号4フィードに一部の試合はユニ中継を加えて1試合5チャンネルのマルチアングルライブを行う。
- ・その日の試合を繰り返し再放送することで、視聴者の生活スタイルに合わせやすい視聴機会を提供する(タイムシフトと定義)。
- ・日本代表戦を中心としたフレキシブルな編成を行うチャンネルと設定し、各チームの勝ちぬけ状況を見ながら柔軟な番組編成を行い放送する時間帯を設ける。
- ・ハイライト専門チャンネルを設定し、どこよりも早くハイライト番組を送出する。
- ・「スカパー!ワールドカップチャンネル」を設定し、あらゆる切り口で徹底的にワールドカップの解説を行う。

W杯放送に使用する10チャンネルは、ワールドカップスタジオチャンネル(Ch.140)、国際映像チャンネル(Ch.141)(試合中継の時間帯に「国際映像」を放送し、それ以外の時間帯はタクティカル映像のタイムシフト)、

タクティカルチャンネル（Ch.142）、Aチームチャンネル（Ch.143）、Bチームチャンネル（Ch.144）（各チームの過去の試合の再放送も）、タイムシフトチャンネル（Ch.145）（その日の試合の「国際映像」を試合直後から繰り返し編成）、日本代表チャンネル（Ch.146）、ハイライトチャンネル（Ch.147）、サイマルチャンネル（Ch.121 / Ch.122）（スカイサービスが受信できない視聴者のため）と各チャンネルに明確なテーマ設定がされた。

「スカイパーフェクトTV」では、前回1998年フランス大会では500時間に及ぶ放送時間だったのが、今大会では10のチャンネルを使い全64試合を延べ6500時間に及ぶ放送を行った。また、今大会では、ホストブロードキャスターとして、HBS社（Host Broadcast Services：本社スイス）が国際中継映像の制作に当たった。HBS社のスタッフは、1998年フランス大会のホスト業務を担当したメンバーが中心となって世界中から国際大会経験者を集めて約2500名のスタッフにより組織され、日韓両国でW杯全64試合のテレビ映像を作り、放映権を獲得したアメリカを除く全世界中の放送事業者に配給した。各局独自のユニカメラを設置し、一部オリジナルの映像を入れることもあったが、地上波テレビ局も「スカイパーフェクトTV」も基本的にはこのHBSが作った全世界共通の国際映像を放映した。

1 - 2 地上波テレビの番組編成³⁾

地上波テレビ各局は、W杯の試合中継だけではなく、数多くの関連番組を編成・放送した。通常のニュースやワイドショーなどでもW杯関連のニュースや話題などがほぼ毎日のように伝えられた。

表1は、6月11日の各局の番組表をまとめたものである。この日は、開催国である日本、韓国の試合もなく、平日の典型的な番組表と位置づけることができるだろう。ラジオ・テレビ欄（以下、ラ・テ欄）からW杯に関する記述がある番組を、試合中継、サッカー情報（スポーツ番組など）、周辺情報（ワイドショーなど）に分類した。

テレビ大阪（テレビ東京系）とNHK教育を除く各チャンネルで、早朝のニュースやワイドショー、そして昼の総合情報番組から夕方のニュース、夜のニュースまで「一つの連続した出来事＝メディア・イベント」（Dayan & Katz 1992）としてのW杯が伝えられていることがわかる。つまり、テレビはW杯という競技を伝えるだけではなく、関連のさまざまな出来事を同時中継することによって、W杯というイベントそのものをテレビの中で構成しているのである。

民放テレビは、多くの場合、自局で試合中継をした際に、夜間時間帯に「FIFAワールドカップ・トゥデイ」などのダイジェスト放送を編成していた。6月11日では、読売（日本テレビ系）がそうである。それだけではなく、自局の試合中継の前には、番組と番組の間の時間帯、通常ステーション・ブレイクといわれる時間に試合中継の予告を流し、通常番組の中でも試合中継の案内をアナウンスおよび字幕などで流していた。その一方で、当日のほかの民放テレビのラ・テ欄には、ほとんどW杯に関する記述はなく、W杯以前の番組編成と大幅な変化はない。他局で試合中継がされている時にもドラマなど通常番組を放送している。この点は、いわば視聴率を重視する民放ならではの特徴として指摘できよう。

表1 2002年6月11日番組表

時間	NHK	毎日	ABC	関西	読売
5	5.00 おはよう日本	5.00 N 一番!	4.50 歴史 マダム	5.09 天おはよ	
6		6.00 おはよう!グッデイ	5.25 コール	5.25 めざましテレビ	5.25 あさいチ!
7			6.45 おはよう朝日です		6.30 ズームインSUPER
8	8.15 さくら		モーニング	00 とくダネ!	
	30 N 35生活ほっと	8.30 はなまるマーケット			8.30 情報ツウ
9	9.30 料理(再)		9.30 札幌時計台殺人事件	痛快!エブリデイ	
10	00 N天 おしゃれ(再)	10.20 板東英二の欲バリ広場			10.25 あさいチ relax
	30 親の顔	30 温泉へ行こう		11.10 昼ショップ 25料理	
11	00N 05関西	11.25ベストタイム	11.28 ロク 32テレビ カタログ 35N天 45N	30 ワイドN	11.20 MONOモノ倶 楽部 25 歯 30 N 50 3分料理
0	00 N 20昼時 45 さくら(再)		スクランブル	00 笑っていいとも	00 おもいっきりテレビ
1	00 N 05スタジオパ ーク	00 一攫千金 30幼稚園ゲーム2	05 上沼の料理 25 徹子の部屋	00 ごきげん 30 真珠夫人	
2	00 N 05スキットと一 心太助 体操	00 ジャスト 50 N まる得マーケット	00 暴れん坊將軍 N	00 開運のツキ 05 2時ドキッ! N	1.55 ザ・ワイド
3	00N天 10公園通り	00 ちちんぷいぷい	00 赤かぶ検事の逆転 法廷 55 ワイドABCDE~す	3.34 こんな恋のはなし 4.30 水曜日の情事	3.49 サスペンス傑作 劇場(再)
4	00 N 視点(再) 15 地球ふしぎ大自然				
5	00 NN とっておき関西 45 ニュースかんさい発	50 ニュースの森 6.19 VOICE 55 サバイバー	54 Jチャンネル 6.18 ゆう 歴史街道	5.26 まる子ちゃん 5.54 スーパーニュース 620ほっとカンサイ	5.49 プラス1 6.20 スクランブル
7	00 ニュース7 30 クローズアップ現代	7.54 ユニバーサル情報	00 旅の香り時の遊び 54 きらっと	00 アンگریーセブン 54らんくる 59 盤獄の一生	00 伊藤家の食卓 58 テレビヤン
8	歌謡コンサート 45 N関西845	00 学校へ行こう! N	00 イマジン! N	8.54 N 天	04 Nスポット 10 2002FIFA ワール ドカップ・E組「カ メルーン×ドイツ」
9	ニュース9 15プロジェクトX	00 ガチンコ! 54 テクノアイ	00 ロンドンハーツ 54 ニュースステーション	00 整形美人 54 素の吉本 00 春ランマン	
10	00 NHKニュース10	00 タモリのジャング ルTV 54 筑紫哲也のNEWS23		54 天	10.40 FIFA ワールド カップトゥデイ 11.30 テレビヤン
11	00 2002W杯ハイライト	50 N 55 マジっすか! 5.55 真昼の月	11.10 車窓から 17 ごきげん! 0.17 N	00 ジャンク 30 ニュースJAPAN すばると!	40 N 出来事 0.14 MAX
深夜	0.00 あずを読む		0.24 ぶっすま	0.40 スポーツアミー ゴ!	0.41 Z ろみひー

注) 試合中継, サッカー情報番組, 周辺情報を伝える番組を, それぞれ黒, ねずみ色, 薄い灰色として, 色分けした。

以下では地上波テレビ各局のW杯関連番組の概要について紹介する（表2参照）。

NHKでは、開幕式・開幕戦、決勝戦・閉幕式を含めた24試合の中継に加えて、多くの特別編成番組が放送された。代表的なW杯番組としては、ほぼ毎晩11時頃にその日の試合結果を中心に伝えた「W杯ハイライト」がある。そのほか、「おはよう日本」、「ニュース7」、「週刊こどもニュース」など主要定時ニュースやスポーツ情報番組「サタデースポーツ」、「サンデースポーツ」などレギュラー編成番組内でも、W杯関連のニュースや話題などを積極的に取り入れた。また、関西地域で放送される「ニュースかんさい発」では、関西地域の試合およびキャンプ地の情報を中心にW杯を伝えた。

NHK教育では、試合中継やサッカー競技に関連する番組よりは、むしろ韓国との共同開催を意識して、韓国の文化を紹介するという趣旨の番組が一部編成された。6月から「人間講座」のシリーズとして始まった「大好きな韓国」（6月3日から9回シリーズ、講師：四方田犬彦明治学院大教授）では、「食事作法や韓国映画、徴兵制、化粧法など街角のあらゆる四方田流の体感的韓国論」を伝えた。

民放各局でも、ニュース、情報番組、ワイドショー、スポーツ情報番組の通常の放送枠のなかで、W杯の関連情報が重点的に伝えられた。音楽番組など通常はサッカーやスポーツとの関係が皆無な番組においても、日韓の音楽や応援ソングなどW杯に関連した話題を扱う番組が多かった。

朝日放送（テレビ朝日系）では、「おはよう朝日です」（関西ローカル）、「スーパーモーニング」、「スクランブル」、「ワイドABCDE～す」（関西ローカル）、「ゆう」（関西ローカル）、「ニ

ューステーション」などの通常の番組のなかでW杯関連情報を伝えた。とくに、関西ローカルの「おはよう朝日です」、「ワイドABCDE～す」、「ゆう」は関西のキャンプ地や試合、出身選手、経済効果など地元の情報に特化していた。そのほかに、音楽番組である「題名のない音楽会21」で「心の歌日韓音楽の架け橋」（6月16日）が、また「たけしのTVタックル」では「緊急企画！W杯丸秘ウラ側見せます！チケット問題」を放送した。情報番組「徹子の部屋」では、5月28日に黒田福美（俳優）、5月31日には川淵三郎氏（日本サッカー連盟会長）が出演。サッカー情報番組「やべっちFC」では、W杯関連の情報をまとめて放送した。W杯特別番組としては、「2002FIFAワールドカップ開幕前夜特番」（5月30日、19時 - 20時48分放送）、「FIFAワールドカップディスウィーク日本VS.ロシア戦直前の模様独占生放送」（6月9日、18時 - 19時56分放送）の放送を行った。

関西テレビ（フジテレビ系）では、「とくだね」、「スーパーニュース」、「ニュースJAPAN」、「すばると!」、「EZ! TV」などの通常番組においてW杯報道が行われた。また、「報道2001」で「日本代表の活躍はこの国を変える」（6月16日）を放送した。特別番組としては、開幕直前の「2002FIFAワールドカップ開幕直前！日本頑張れ！世界制覇宣言スペシャル」（5月27日、19時 - 20時54分）などがある。

毎日放送（東京放送系）では、W杯を取り上げた主な番組として、「おはよう！グッデイ」、「ベストタイム」、「ジャスト」、「ちちんぷいぷい」（関西ローカル）、「VOICE」（関西ローカル）、「筑紫哲也のNEWS23」、「スーパーサッカーPLUS」、「サンデーモーニング」などがあげられる。その他の番組として、「ZONE」で

は、「ゴン中山の肉体を解剖」（5月26日）、「ベッカム&稲本の真実」（6月16日）、「ブラジル・・・王国の真実」（6月30日）が放送された。また情報番組「はなまるマーケット」では、「韓国カルチャー上陸 W杯海の幸満喫穴場」を放送した（6月6日）。バラエティ「アッコにおまかせ！」でもW杯の話題を、2日、9日、16日と連続して放送した。特別番組としては、「日韓！熱血警察官24時決戦直前！緊迫の札幌から完全生中継SP！」（6月7日19時55分 - 20時49分放送）、「2002FIFAワールドカップ総編集」（7月1日21時00分 - 22時54分放送）などがあった。

読売テレビ（日本テレビ系）では、「ズームインSUPER」、「ザ・ワイド」、「今日の出来事&MAX」などの通常のニュース・情報系番組で、試合および周辺情報は毎日のように伝えられた。そのほかの番組では、「特命リサーチ200X」において「『フーリガン大暴動が日本でも起きる理由』人が凶暴化する衝撃の原因と

身を守る秘法」を放送した（5月26日放送）。

以上のような地上波テレビのW杯期間中の番組編成からは、いくつか自国開催のW杯ならではの特徴も見られる。まずはオリンピックや前回フランス大会と比べれば、明らかに周辺情報が多かった点である。単一種目であるため試合数が少ないことにも起因するが、前回のフランス大会では選手や試合（日本チーム、チケット問題を含む）の報道が中心であったことを鑑みると、今回のW杯が自国開催であったことが周辺情報の多さのより直接的な要因であろう。また、前回フランス大会の際には、NHK単独中継であったために、民放テレビ各局の報道の特徴に差はみられなかったが、今大会では各局が試合放送を行ったことも、多彩な報道がみられた原因と指摘できる。関連して、今回は日本代表以外にも各国のキャンプ地情報や選手の紹介、その国の文化や日本との関係などにも触れる内容が多かったことも特徴であろう。また、共同開催国である韓国の文化紹介および日韓友

表2 各局の主なW杯関連番組

チャンネル	放送地区	番組名	曜日	時間帯	内容
NHK	全国	W杯ハイライト	ほぼ毎日	23時前後～	その日の試合結果を中心に放送
	全国	おはよう日本	毎日	平日5時 - 8時15分、 土曜6時 - 8時15分、 日曜7時 - 7時45分	ニュース番組。前日の試合結果や当日予定の試合、日本チームなどのW杯情報
	全国	ニュース7	毎日	月 - 土19時 - 19時30分、日曜19時 - 19時20分	ニュース番組。当日の試合結果などW杯情報
	全国	週刊子どもニュース	土曜	18時10分 - 18時45分	ニュース番組。W杯情報
	全国	サタデースポーツ	土曜	通常22時 - 22時30分 (期間中は変則的)	スポーツ情報番組。W杯試合情報
	全国	サンデースポーツ	日曜	通常22時 - 23時 (期間中は変則的)	スポーツ情報番組。W杯試合情報や解説。
	ローカル	ニュースかんさい発	平日	17時 - 19時	ローカルニュース番組。関西出身の選手および関西地域の試合・キャンプ地の情報。
朝日放送 (テレビ朝日系)	ローカル	おはよう朝日です	平日	6時45分 - 8時	ローカルワイド情報番組。W杯試合結果など。
	全国	スーパーモーニング	平日	8時 - 9時30分	ワイドショー。試合以外のW杯関連の情報
	全国	スクランブル	平日	12時 - 13時5分	ワイドショー。試合以外のW杯関連の情報

	ローカル	ワイド ABCDE ~す	平日	15時55分 - 17時54分	ローカルワイド。関西地区のW杯関連情報
	ローカル	ゆう	平日	18時18分 - 18時54分	ローカルニュース。関西地区の試合，出身選手，経済効果など
	全国	ニュースステーション	平日	21時54分 - 23時10分	ニュース番組。試合結果を含めるW杯情報
	全国	題名のない音楽界21	日曜	9時 - 9時30分	音楽番組。「心の歌日韓音楽の架け橋」(6月16日)
	全国	たけしのTVタックル	月曜	21時 - 21時54分	「緊急企画！W杯丸秘ウラ側見せませす！チケット問題」(6月10日)
	全国	徹子の部屋	平日	13時20分 - 14時	5月28日・黒田福美(俳優)，5月31日・川淵三郎(日本サッカー連盟会長)
	全国	やべっちFC	日曜	深夜	サッカー情報番組。W杯関連の情報
関西テレビ (フジテレビ系)	全国	とくだね	平日	8時 - 9時55分	ワイドショー。主に試合以外のW杯関連情報
	全国	スーパーニュース	平日	17時54分 - 19時	ニュース番組。一部ローカルニュースが含まれる。関西地域のW杯情報
	全国	ニュースJAPAN	平日・土曜	平日23時30分 - 24時40分，土曜24時 - 24時15分	ニュース番組。
	全国	すぼると！	平日・土曜日	月 - 木23時50分～，金曜24時10分～，土曜24時15分～	総合スポーツ情報番組
	全国	EZ!TV	日曜	通常22時30分 - 24時45分	ワイド情報。主に試合以外のW杯情報
	全国	報道2001	日曜	7時30分 - 8時55分	「W杯で日本が変わる！川淵三郎と北川・浅野知事」(5月26日)，「W杯日本代表の活躍はこの国を変える！」(6月16日)
毎日放送 (東京放送系)	ローカル	おはよう！グッディ	平日	6時 - 8時30分	ワイド情報。主に試合以外のW杯情報
	全国	ベストタイム	平日	11時25分 - 13時	ワイド情報。主に試合以外のW杯情報
	全国	ジャスト	平日	14時 - 14時55分	ワイドショー。試合以外のW杯情報
	ローカル	ちちんぷいぷい	平日	15時55分 - 17時50分	ローカルワイド。関西地区のW杯関連情報
	ローカル	VOICE	平日	18時19分 - 18時55分	ローカルニュース。関西地区の試合，出身選手，経済効果など
	全国	筑紫哲也のNEWS23	平日	深夜	ニュース。試合結果を含むW杯情報
	全国	スーパーサッカーPLUS	土曜	24時 - 24時45分	サッカー情報番組。W杯試合結果，試合予想，選手情報など
	全国	サンデーモーニング	日曜	8時54分 - 9時54分	ワイドニュース。W杯情報
	全国	ZONE	日曜	18時 - 19時	「ゴン中山の肉体を解剖」(5月26日)，「ベッカム&稲本の事実」(6月16日)，「ブラジル・・・王国の真実」(6月30日)
	全国	はなまるマーケット	平日	8時40分 - 10時20分	「韓国カルチャー上陸 W杯海の幸満載中継SP！」(6月6日)
	全国	アッコにおまかせ！	日曜	11時45分 - 12時54分	バラエティ。W杯関連情報
読売テレビ (日本テレビ系)	全国	ズームインSUPER	平日	6時30分 - 8時	ワイド番組。W杯情報
	全国	ザ・ワイド	平日	13時55分 - 15時49分	ワイドショー。試合を除くW杯関連情報
	全国	今日の出来事&MAX	平日	22時54分 - 23時55分	ニュース。W杯情報
	全国	特命リサーチ200X	日曜	19時58分 - 20時54分	「フーリガン大暴動が日本でもでも起きる理由」人が共謀化する衝撃の原因と身を守る④法(5月26日)

好ムードへの意識的な取り組みが見られた。

1-3 ワイドショーの概要 「ザ・ワイド」 （日本テレビ系）を事例に

次に、競技以外のW杯関連情報を伝える代表的な番組として、ワイドショーを取り上げて、その中でどのようなメディア言説が作られているのかに注目する。ワイドショーは、平日の午前中や昼間に主婦層を視聴対象にして、芸能・時事ネタを中心にした娯楽番組の一種である。具体的には日本テレビ系列「ザ・ワイド」の6月3日 - 7月3日の1ヶ月間のW杯関連の放送内容を検証した。「ザ・ワイド」は、草野仁氏をメインキャスターに日本テレビ系列（関西地域では、読売テレビ）で午後1時55分から3時49分の時間帯に毎週月 - 金曜日に放送されている。他局のワイドショーに比べ、「ザ・ワイド」は事件や時事問題が多く扱われるという特徴をもっており、W杯関係の報道も連日行われ、放送時間も常に1/3以上を占めた。

「ザ・ワイド」の放送の特徴として、まず、一つ目に選手に対する人間的関心の高さを指摘できる。そもそも「テレビは事件を人間化する」傾向があり、その「エピソード中心の取材システムは、事件の当事者ないしは主要関係者の言動に焦点を当て、これらの人物がいつ、どこで、何をしたのかを、その現場において映像化し、視聴者に見せることに力点が置かれがちである」（藤竹1996：7）が、とりわけスポーツに関する人間化の傾向は、人種・国民の集合的アイデンティティやステレオタイプの再生産との関連でより注意深く考察されるべきであろう。

「ザ・ワイド」の選手報道には二通りあり、それは日本代表選手のものと同国代表の人気選手の報道である。前者の日本代表選手の報道は、

日本代表の司令塔と呼ばれ元々の知名度が高い中田英寿選手やゴールを決めて得点を獲得した稲本選手など特定の選手が中心であり、その内容は、選手の個人技やポジション、所属チーム等よりは、成長過程や生活、人柄などを情緒的なドラマ風に伝えるものであった。これらの選手は、日本代表チーム全体の映像でも常にその姿を確認でき、その映像をみて番組の司会者やコメンテーターはまるで選手の心が透き通って見えるかのようなコメントを出していた。

一方、後者の各国代表の人気選手の報道については、日本代表選手の扱いとは異なり、サッカーになじみのない視聴者が楽しんでW杯を観戦できるように、各国の「カッコイイ」選手について紹介し、サッカーそのものの面白さは分からなくてもお気に入りの選手を見つけて「W杯を楽しむ」ことを強調していた。とくに、W杯開幕後に特に注目を集めたイングランド代表のデイヴィッド・ベッカム選手については、繰り返し放送することでその人気を煽るだけでなく「ソフトモヒカン」と呼ばれるベッカムのヘアスタイルや彼のプライベートな部分まで放送し、カリスマ性を演出した。その一方で「面白く、陽気な」選手たちも注目された。たとえば、ブラジル代表のロナウド選手は「変わっている」髪型の選手として注目を浴びたのである。

次に試合に関しても、日本戦への熱い関心を除けば、試合の内容よりは試合会場周辺の様子をリポートしたり、ユニークなサポーターたちを紹介したりと話題性を重視していた。日本戦以外で試合の様子が伝えられたのは、因縁の対決と呼ばれたイングランド - アルゼンチン戦や、事実上の決勝戦と呼ばれたブラジル - イングランド戦、そして決勝戦のブラジル - ドイツなど一部の試合であった。

とりわけ、試合以外の要素で注目を浴びたのは、いわゆる「フーリガン騒ぎ」であった。W杯開幕以前から危険視されていた過激なサポーターについては、六本木やイングランド・アルゼンチン戦（於札幌）など騒動や暴動が危惧される場所などの町並みや、警察官による厳重な警備などが報道されると同時に、臨時休業措置を取った会場周辺の商店街の様子などが報道された。結局フーリガンは出現することなく、フーリガン化を懸念された外国人サポーターは“陽気な、人の良い”サポーターとして画面に登場することになった。皮肉にも、予選リーグ戦において日本戦以外で注目を浴びた試合は、フーリガンの出現が予想された試合だった。

その他の外国人サポーターの映像も、各国へのステレオタイプの知識（偏見）を再生産するような映像が多く、例えばドイツ人サポーターでは、ビールを飲む男性、ブラジル人サポーターはリオのカーニバルをイメージさせる衣装を着ている女性などイメージ性が重視されたことになる。

日本人サポーターについては、当初は会場や周辺のごみ拾い、日本以外のチームへの対応など「行儀が良い」と評する一方で、道頓堀飛び込みや街中での行き過ぎた迷惑行為で問題になり、日本人サポーターのほうがフーリガンである、といった商店街関係者のコメントなどが紹介された。「ザ・ワイド」は徐々にこれらのコメントに同調をしながら、日本人サポーターに注意や批判のコメントを出すようになった。

また「チケット」問題／「空席」問題についても集中的な関心が注がれた。今大会のチケット問題については二つの問題点があった。まず開幕前に問題視されたのが、チケット郵送の遅れが原因となり、開幕間際になっても購入者の

手元にチケットが届かなかったという「チケット問題」と、開幕後に問題となった「空席」問題である。

チケット購入希望者がチケットを入手できないことは前回のフランス大会も同様に話題になったが、今回とりわけ問題視されたのは空席が大量に存在するにも関わらず、チケット購入希望者が購入できなかった点や、その後のインターネット・電話の追加販売で大幅な混乱が生じたことを背景に前回以上の問題となった。「ザ・ワイド」では、チケットを求めるサポーターや被害者、空席によって減収が予想される地方自治体首長（都道府県知事）が困惑もしくは憤怒の表情で伝えられているのに対して、FIFAの会見やパイロム社の淡々とした対応が対照的な絵として配置された。さらに韓国においてもチケット問題（空席問題と二重発券問題）が生じ、日本と同様の被害者意識の共有が図られた。しかし、韓国側が追加チケット販売の対応やFIFAへの賠償請求などの素早い対応を行ったことをしっかりした対応として評価している点は興味深い。

「ザ・ワイド」の特徴のひとつに、皇室に対する関心の高さがあげられる。それは他の番組、ワイドショーと比べて最もラ・テ欄に皇室（天皇、皇太子、雅子皇太子妃、愛子内親王など）関連の記述が多いことから明らかである。W杯期間中も皇太子・雅子皇太子妃の試合観戦の様子だけではなく、対戦国ベルギーの皇室と日本の皇室とのつながりに焦点を当てる企画（6月3日）や日本代表と皇室との「秘話」を発掘する試み（6月27日）などもあった。

最後に、共同開催国である韓国の報道であるが、ソウル市庁舎前のサポーターの様子や韓国チームの勝敗などに熱い関心が注がれたといえ

よう。韓国対トルコの3位決定戦時には、在日韓国人が多く居住する東京大久保での観戦の様子や司会者や出演者の応援コメントだけではなく、一般の日本人による「韓国にがんばってほしい」「韓国を応援します」というコメントが放送された。しかし、「ザ・ワイド」での韓国報道が目立ち始めたのは、日本代表チームが決勝リーグ第一戦、対トルコ戦で敗退した後から

表3 「ザ・ワイド」(日本テレビ系、6月3日-7月1日)W杯関連コーナーのテロップ

日付	テロップ	ラ・テ欄
6月3日 (月)	ワールドカップ開幕 皇太子さま雅子さま 対ベルギー戦ご観戦へ	ベルギー皇太子来日雅子さまW杯観戦へ
	ワールドカップ開幕 皇太子さま雅子さま皇室ご多忙	
	ワールドカップご観戦へ ベルギー皇太子来日 皇室との深い絆	
	特ダネファイル 独占!!ワールドカップでアノ芸能人カップルを激撮 あの芸能人に遭遇	
	厳戒体勢!六本木に外国人サポーター集合	
6月4日 (火)	興奮は頂点に!日本代表まもなく「赤い悪魔」と対決	直前中継 皇太子ご夫妻も観戦・・・ 日本対決へ
	生中継 緊迫のスタジアム 日本・ベルギー戦まもなく	
	直前情報 雅子さまもご観戦 世紀の一戦カウントダウン	
	まもなく日本と対決 ベルギーでどんな国?	
	ワールドカップ 街で聞いた「イイ男」あの有名選手(秘)素顔	
	日本「余りチケット」電話販売 韓国「余りチケット」現地販売 生中継 緊迫のスタジアム 日本・ベルギー戦まもなく	
6月5日 (水)	列島大興奮 決めた日本!歴史的ゴールワールドカップ初勝ち点	列島興奮日本VSベルギー大熱戦 空席騒動でファンの怒り爆発 渦中の英国会社直撃 雅子さまもご観戦 感激
	日本「歴史的ゴール」で初勝ち点	
	目指せ決勝!!稲本選手「幻の3点目ゴール」日本パワーにベルギー仰天	
	列島大興奮 決めた日本!歴史的ゴールワールドカップ初勝ち点	
	ファン激怒!「チケット売り切れ」「会場は空席」なぜ!?	
	「チケット売り切れ」も「会場は空席で大問題」	
	空席問題 なぜこうなった 渦中の英国会社を直撃!	
	緊急英国取材 チケット問題渦中英・パイロム社とは? 特ダネファイル ワールドカップ公式ボール 時価2,000万円!オークション 速報!ワールドカップ戦士 中田選手が会見	
6月6日 (木)	ワールドカップ 勝てるか!?ニッポン「北の巨人」ロシアとは・・・	記述なし
	決戦は日曜日 この試合が「天王山」強敵ロシアの弱点発見!	
	決戦は日曜日 日本に勝算あり 強敵ロシアの弱点発見!	
	原因を解明して 埼玉県知事が激怒	
	ワールドカップ 勝てるか!?ニッポン「北の巨人」ロシアとは・・・	
	特ダネファイル 驚異的記録!!日本対ベルギー戦の効果 特ダネファイル どんな歌詞!?日本の対戦国の国歌の中身 特ダネファイル 長嶋前監督日本代表に「チョー」感激	
6月7日 (金)	特ダネファイル 中田英寿(25)「湘南の母」が(秘)素顔を告白!	日本代表再始動
	特ダネファイル 給食がおかず危機!「原因はワールドカップ」の丸秘事情	
	特ダネファイル 世界中が激怒!チケット問題の原因とは?	
	ワールドカップ一番の注目戦きょう因縁の対決に札幌の街は厳戒体勢 早くもヒートアップ!両国のサポーターが集結!札幌の街は厳戒体勢	
	戦争、疑惑の判定、骨折・・・イングランドVSアルゼンチン因縁の歴史 両国サポーターが集結!きょうイングランドVSアルゼンチン札幌の街は厳戒体勢	
	生中継!厳戒の札幌きょう因縁の対決!イングランドVSアルゼンチン	
6月10日 (月)	列島熱狂!日本がロシアに歴史的勝利	列島熱狂W杯ロシア戦 ピザ店出前 殺到 日口夫婦(秘) バトル
	日本が歴史的勝利 キムタク、静香も絶叫	
	視聴率が66.1 サッカー中継歴代トップ	
	密着!日露夫婦(秘)バトル	
	日本が歴史的勝利 密着スポーツ新聞社	
6月11日 (火)	2試合連続ゴール 22歳ヒーロー!稲本潤一選手とは	
	サッカー日本代表選手キャンプ地の子供たちと交流 油断禁物も決勝トーナメント目指し日本さらに有利	

	“時の人” 稲本フィーバー続くチュニジア戦もキーマン！	日本代表再始動
6月12日 (水)	“フーリガンは日本人！？” 暴動観客に大迷惑 「フーリガンは日本人！？」 イベント相次ぐ中止 暴走観客に大迷惑 特ダネファイル ワールドカップ観客席に「魔術師！？」 特ダネファイル 小野選手と中田選手試合中何を話してた？ 特ダネファイル 戦う埼玉県知事FIFA会長に“チクリ”	フーリガン対策 のはずが・・・暴 れる日本人に大迷 惑
6月13日 (木)	日本代表チーム決戦場へ出発 特ダネファイル 日本対チュニジア戦チケット14分で完売 妻はサッカーに興味なし！ 熱狂サポーター夫に怒り	密着バトルW杯 熱狂夫に妻の怒り 爆発&夫より氷川 きよし命の妻
6月14日 (金)	日本中が大注目！ 決勝トーナメント進出へまもなく運命の決戦！ ワールドカップ職場で観戦は是非か論争も！？ 潜水隊も待機・・・道頓堀ダイブ阻止へ大阪の街は厳戒態勢！ 会社は？ 学校は？ 平日の昼間にもかかわらず・・・熱狂サポーターが大終結 生中継！ 大阪・国立競技場 まもなく運命の決戦！ 長居スタジアムから生中継！ 一足早く先発メンバー発表木になる日本代表の表情 とは？ この男たちに注目！ 日本代表のキーマン 強さの秘密とは？ お宝映像を発掘！ 日の丸戦士の意外な素顔 小野選手 天オプレイヤー努力の少年時代 戸田選手 炎のモヒカンに秘められた闘志 宮本選手 マスクの下に隠された秀才超二枚目の素顔 植崎選手 流血！ 不死身の怪物の素顔 注目 宮本恒靖選手 「バットマン・・・怪傑ゾロ・・・」 マスクの下の意外な 素顔 注目 戸田和幸選手 炎のモヒカンヘアに秘められた闘志とは・・・ 注目 植崎正則選手 シドニー五輪“流血の守護神” は不死身の怪物だった！ 頭がい骨折でもゴール死守“不死身の怪物” の素顔 注目 小野紳二選手 アジアの天オプレイヤー努力の少年時代 日本代表の素顔 バットマン・・・炎のモヒカン・・・不死身の怪物・・・天才 特ダネファイル あの有名人が告白！ 稲本選手の(秘)素顔 特ダネファイル 親友・なすびが告白！ 稲本選手の(秘)素顔 ワールドカップに埋もれた！？ 敏腕記者がひた隠しにする芸能(秘)スクープとは！？	直前生中継チュ ニジア戦・道頓堀 厳戒
6月17日 (月)	日本ついに決勝トーナメント進出 森島選手の素顔を公開 横浜でもダイブに警戒 杜の都早くも燃え上がる 日本代表が宿泊ホテル(秘)公開 強豪トルコの実力とは・・・ 強豪トルコどんな国・・・!?	日本決勝トーナメ ントへ あす強豪 トルコ戦 杜の都 熱狂 奇跡の11(秘) 映像
6月18日 (火)	総力中継列島興奮。日本代表歴史をぬりかえるか？ 主婦の買物にも異変意外なワールドカップ効果 トルシエ、中田・小野を叱る ベッカム大フィーバーバカ売れ代表グッズ トルコ大使館夫人複雑胸中 日本 - トルコ戦注目のスタメン発表 決勝目前	総力中継日本代表 運命のキックオ フ・・・トルコ決 戦前に各地で熱狂 W杯意外な損得 勘定
6月19日 (水)	「まけてもやはり大騒ぎ」 はじめてのニッポン 外国人サポーターの生活 特ダネファイルワールドカップ日本代表超速観見！	敗退直前で新宿・ 渋谷・六本木で若 者大騒ぎ
6月20日 (木)	イタリア敗退で大騒動！ 韓国の選手にクビ宣告 特ダネファイル トルシエ監督初めて流した涙のワケ	記述なし
6月21日 (金)	黄金の右足ベッカム 世界注目イングランドV S ブラジル 今大会イケメンNo. 1 緊急アンケート主婦に聞くW杯と日本代表 人気支えたのは主婦層 ベスト16じゃ悔しい	日本代表の今後 は
6月26日 (水)	韓国700万人代熱狂 新宿・大久保が染まった“赤いシャツ軍団” 大行進！ 仰天！ FIFAが反論「空席問題は日本側の責任」	

	特ダネファイル「非難するなら副審 韓国 - スペイン誤審騒動」	
	特ダネファイル FIFA 会長が「誤審対策」発表	記述なし
6月27日 (木)	皇太子さま雅子さまワールドカップ観戦 雅子さまも観戦した・・・熱狂W杯愛子さまニッポン代表ユニフォームで 日本VSトルコ 愛子さまニッポン代表ユニフォームで応援秘話 FIFAワールドカップブラジル決勝進出! 決戦は日曜日 夢の対決!どっちが勝つの!? 得点王ロナウドVS鉄壁キーパー	記述なし
6月28日 (金)	水を差したのは審判の判定問題 「日本女性はマヌケな牝牛」トンデモ記事の内容とは? ワールドカップ選手, 決定! インパクト髪型BEST 5	W杯誤審騒動
7月1日 (月)	きのう横浜で決勝 ブラジルが5度目のV 国民の4人に3人がテレビにくぎづけ ワールドカップをふり返る	南北緊迫W杯開催 中に韓国と北朝鮮 が交戦
7月2日 (火)	マスクマン宮本・ゴン中山ら小泉首相と官邸夕食会 日本にお別れドイツ代表帰国 FIFA ランキング202位と203位の対決	W杯成功日韓代表 選手官邸へ
7月3日 (水)	韓国代表チーム凱旋パレードに国民大フィーバー 日本代表監督次期候補にジーコ氏が急浮上	記述なし

であり、ラ・テ欄やテロップからみてわかるように、報道の中心は日本代表チームや皇室そしてベッカム選手ら人気選手であった。

2. 新聞

2-1 社説比較

次は『朝日新聞』『読売新聞』『毎日新聞』『産経新聞』(以下それぞれ『朝日』、『読売』、『毎日』、『産経』)の社説を分析対象として、各紙がW杯をどのように位置づけて伝えていたのかについて考察する。分析期間中(5月30日-7月1日)の各紙のW杯関連社説は、『朝日』が7本、『毎日』『産経』が6本、『読売』が5本であった。以下では、各紙の論調を「W杯の意味」「W杯と日本・日本人」「日韓共同開催の意義」「空席問題/チケット問題」に分けて考えてみる。

「W杯」あるいは「サッカー」という競技については、『朝日』と『毎日』は「世界共通の言語」と位置づけている。『朝日』は、「政治や軍事、経済の大国、必ずしもサッカー大国にならず。(中略)法外な軍事力や核をもったチー

ムもありません。許されてもいません」(6月23日付)と言及し、サッカーを国の政治性や軍力力などに関係なく対等に戦える「世界共通の言語」として位置づけることによって、今回のW杯を首尾一徹、政治とは全く関係のない「スポーツの祭典」と位置づけている。一方、『産経』は「国の人口や軍力力などに関係なく、国同士が正々堂々と戦い合える」(6月19日付)とはいうものの、その基本スタンスは、「国家の利害に直結するといっても言い過ぎではない」(6月11日付主張)というサッカーと現実の政治・社会との関係を改めて浮き彫りにするというものであり、むしろ『朝日』のような理想論に警鐘を鳴らすという立場であった。『読売』は、サッカーの「世界共通の言語」でありながら、「政治であり文化である」両面性を指摘しつつ、「国際性と各国の特徴が融合した、最高水準のプレーを堪能したい」(5月30日付)と冷静な見方に終始した⁴⁾。

こうした「W杯」への意味づけは、必然的に「W杯をいかに受け止めるか」つまり「W杯と日本・日本人の関係」の問題に関わっている。各紙はキャンプ地での選手との交流や異文化交

表4 各紙のW杯関連社説一覧

朝日新聞		
日付	見出し	小見出し
5月31日	「共通言語」を楽しもう	W杯開幕
6月4日	早急に対策を講じよ	W杯チケット
6月11日	気を引き締めていこう	W杯初勝利
6月15日	よかった、よかった	日韓W杯
6月19日	よくやったありがとう	日本敗退
6月23日	確に残るものがある	W杯
7月1日	ナショナリズムを超えて	W杯閉幕
毎日新聞		
日付	見出し	小見出し
5月30日	世界を感じ、たのしもう	サッカーW杯
6月6日	見たい人を空席に入れよ	W杯チケット
6月11日	世界知る頼もしい若者たち	W杯初勝利
6月15日	あとしばらく熱き日々を	日韓決勝Tへ
6月19日	よくやった、みんなで拍手を	W杯8強ならず
7月1日	鮮烈な体験 次に生かそう	W杯閉幕
読売新聞		
日付	見出し	小見出し
5月30日	堪能したい最高のサッカー	W杯あす開幕
6月5日	醜態の陰にちらつく利権構造	W杯チケット
6月16日	日本の魅力を経済に生かせ	国際観光立国
6月19日	日本チームが元気をくれた	W杯敗退
7月1日	終わりの後に残された多様な課題	W杯閉幕
産経新聞		
日付	見出し	小見出し
5月30日	世界の「異文化」楽しもう	W杯 あす開幕
6月4日	FIFAには任せられぬ	W杯チケット
6月11日	現実の世界が見える好機	サッカーW杯
6月15日	快挙をすなおに喜びたい	W杯日本16強
6月19日	選手や監督をたたえたい	W杯日本敗退
7月1日	ホスト国の責務果たした	W杯閉幕

流を通して世界を知ったことや、日本チームの躍進が自信を喪失していた日本人に自信や希望を与えたと概ね肯定的な記述をした。しかし、その意味の解釈の方向性という点では、明らかな違いを露呈していた。

『朝日』は、「国際主義を振りかざせば、角が立つし、ナショナリズムに乗れば流される。とかく世界は国家との調和が難しい」と指摘しながら、「ところがW杯では、ナショナリズムを遠慮なく発揮しながら、国家を超えた友好や

交流に貢献するというプラスの相互作用が生まれる」とW杯におけるナショナリズムと国際主義の両立を「おおらかなナショナリズム」と位置づけている（7月1日付）。「よくW杯を戦争にたとえる人がいます。ボールを介した国と国との名誉をかけた戦いだ。そうでしょうか。W杯には、参加チームすべてが了解したルールがあります」（6月23日付）。『朝日』はこうした視点に立っていたからこそ、「日本戦以外では外国チームのユニフォームを着て応援する日

本人サポーターの姿が多く見られた。テレビ観戦などを通じて自分が気に入ったチームを応援していくこともW杯の楽しみ方の一つだろう(6月19日付)と、自国代表に拘らない応援スタイルの新しい形を肯定的に捉えた。そして締めくくりは「『空白の10年』と呼ばれる息苦しさの中で、日本社会の一部には排外的な空気も出ている。悩み深い日本にとって、W杯は多くの示唆と心意気を与えてくれた」(7月1日付)と結んだ。

『産経』は、「日の丸」を振り「君が代」を謡う日本人サポーターの姿を「世代を超えて心一つ」にした、あるいは「国民がこんなに一つに燃えたのは久しぶりではないだろうか」と日本チームの活躍とそれに伴う国民意識の高揚を述べた(6月15日および19日付等)。『産経』によると、W杯のプレー・結果は「国家の利害に直結するといっても言い過ぎではなく、」
「スポーツの世界を美化、理想化してみてきた日本人にとってはW杯は初の“平時の戦争状態”」なのである(6月11日付)。ここでは「戦後の、とくに最近の日本人」は「世界的にみればまるで苦労知らずのお坊ちゃん育ち」であり、他方、世界の現実はどろどろとしたものである。しかし、「この日の大阪・長居陸上競技場は、「日の丸」で埋まり、「君が代」を歌うサポーターたちの声が一段と高かった。国民がこれほど心一つにして、ことに当たった場面が最近、あったらどうか」とし、「今回の勝利は、国民全体がこの国に誇りをもち、自信を取り戻すきっかけにもなる」(6月15日付)と捉えている。

一方『毎日』は、「こんなこと(「日の丸」で埋まり、「君が代」が響く競技場の光景)がかつてあったらどうか」と自問するスタイルは

『産経』と同様であるが、その熱狂の解釈になると、「試合会場では、たくさんの日の丸が舞った。君が代が大きな声で歌われた。顔に日の丸のペイントをした若い女性もいっぱいいた」が、「若者たちにとって、国旗は、仰ぎ見るものではなく、日本を応援するシンボルであり、有力な武器なのだ。国際化社会に生まれ育ったためか、「世界」が視野の中になんか入っている。カラッとされていて、実に開放的だ。在日外国人も抵抗なく輪に加われる」(6月11日付)と、『産経』とは全く異なる解釈を取っている。

『読売』は、社説登場回数からしても一番少なく、また他三紙と比べもっとも落ち着いたといえよう。W杯の意義や日本チームの健闘ぶりを認めつつ、FIFAの体質を含めて今回問題になったさまざまな問題を原因追求・解明を最も要求している新聞であり、四紙の中では問題提起・告発のスタイルを見せた。

次に、「日韓共同開催」についての論調を整理する。「日韓関係」に関して、最も多くの記述をしていたのは『朝日』であったが、各紙も今回のW杯共同開催を機に関係が改善されたことを記述し、両国の新たな関係に期待を寄せているが、同時に受け止め方の微妙な違いも露呈した。

『朝日』は「W杯をテコにして、特に草の根の部分での交流が緊密になった」(5月31日付)と日韓友好を記述しているが、他にもサッカーの普及度や実力、応援カラー等の視点から日韓の比較、差異という点において記述した(6月15日付など参考)。以下は、『朝日』のW杯関連社説で韓国について触れている部分の抜粋である。

・「私たちは95年、日韓基本条約締結30周年にあ

たつての社説で、W杯の『日韓共催』を提案した。当時と比べて、日本と韓国の空気は明らかに変わってきた。W杯をテコにして、特に草の根の部分での交流が緊密になった。（中略）W杯の前夜祭では、日本語入りのW杯公式ソングが韓国の音楽番組で放送された。日本語の歌が正式に音楽番組で放送されるのは初めてのことである。」（5月31日付）

・「共催のパートナー・韓国の代表チームも先にW杯で悲願の一勝を挙げ、国中が沸き返った。第二戦は引き分けたが、ぜひ応援したい。韓国と日本がそろって決勝トーナメントに進むことが共催を盛り上げる。」（6月11日付）

・「複雑な歴史を背負った日韓両国民ではあるが、ここまでテレビの前で互いに声援を送ってきた人々が多かったのではなからうか。その気持ちがかえられたことで、W杯の歴史的共催の意義がさらに膨らんだのは何よりのことである。決勝トーナメントの初戦で、日本はトルコと、韓国はイタリアと、ベスト8をかけて戦う。がんばれニッポン、がんばれ韓国。」（6月15日付）

・「日本が敗退してもW杯が終わるわけではない。共催国の韓国も残っている。」（6月19日付）

・「快進撃を続ける共催国・韓国の試合ぶりは、絶賛のほかありません。精神も肉体も実にタフです。一方で、ベスト8に進出したあと、韓国政府は選手の兵役免除を決めました。これも日本との相違です。」（6月23日付）

・「もう一つ残るのは、日韓の確かなきずなでしょう。たくさんの方が韓国チームに声援を送っています。」（6月23日付）

・「韓国とトルコとの3位決定戦の後、両チームの選手が肩を組みながらグラウンドを回ったのは、そんな『おらかなナショナリズム』の発露のように見えた。」（7月1日付）

・「日韓のチームが活躍した背景には、外国人監督が欧州のリーグで鍛えた選手を中核に据えて、チームの刷新をはかった事実がある。韓国では儒教的な先輩後輩の序列意識をぬぐい去り、日本では髪の色や形でも個性を主張する若い選手たちが力を発揮した。共催国同士のライバル意識も、選手を奮い立たせたのではないか。」（7月1日付）

『毎日』の場合は、量的には『朝日』より少ないものの、論調は『朝日』と類似していた。

・「日本の戦いは終わったが、韓国は勝った。アジアのためにも、さらなる活躍を期待したい。」（6月19日付）

・「韓国のベスト4入りは称賛に値する。・・・日本と韓国の距離も、変わるかもしれない。日韓が、初めて共通の目的のもと手をつないだ。複雑な感情を抱きつつの応援という側面も見え隠れしたが、互いに拍手を送る場面も多かった。日韓関係が新たな時代に入りつつあることを感じさせられる鼓動である。」（7月1日付）

『産経』も韓国に関する言及は少なかったが、まれに韓国国内のチケット販売や応援などに対して優劣もしくは善し悪しの観点から日韓比較を言及した。その代表的な例として次のようなコメントを挙げられよう。

・「日本代表の試合会場では、観衆の多くが『君が代』ばかりではなく相手の国歌にも敬意を払っていた。韓国代表の試合会場での自国びいきには圧倒される思いだったが、日本は日本なりにホスト国としての責任を果たした。」（7月1日付）

『読売』の場合は、『産経』と同様に韓国に関する記述は少ないが、今回の共同開催を契機に日韓関係の新たな友好関係を作ろうとする傾向が見られた。

・「大会運営にも国際協力を得つつ、日韓両国の独自の取り組みが求められる。葛藤の歴史も抱える両国は、大会成功という共通の目的に向かってまい進することになる。連携しつつ、それぞれ万全の体制をとる必要がある。共催を両国の新しい関係のステップとしたい。」（5月30日付）

・「日韓では、多彩な文化交流もあった。初のアジアでの開催、日韓共催の大会は、両国チームの奮闘もあって、まずは成功裏に終わったと言えるだろう。」（7月1日付）

次に、前回大会に続き、大きな問題を引き起

こした「チケット問題」についての各紙の論調を整理する。

『朝日』では、6月4日と6月11日に社説でこのチケット問題について論じた。「問題は、国際サッカー連盟(FIFA)の委託を受けた英国の代理店『パイロム社』を経由して売り出された『海外販売分』にある」としながらも、責任の所在については明確に記述されていない。しかし「アクセスが困難でチケットが売れ残るなど論外だ」などシステムに対する批判や、「数々の疑問が残る」として問題の背景を浮き彫りにしながら「観客不在の運営としか言いようがない」と指摘した。JAWOCに対しては、「FIFAとパイロム社に強く働きかけ、あまったチケットを円滑に売りさばくよう全力を尽くすべきだ」と強く指摘した(以上、6月4日付)。その後の6月11日の社説でも販売システムへの注文や批判が記述された。

『読売』は、「直接の責任は、チケット業務などFIFA(国際サッカー連盟)から業務委託されているイギリスの代理店、パイロム社にある」と明確に責任を追及する姿勢をとった(6月5日付)。さらに、「醜態の陰にちらつく利権構造」という社説タイトル通り、「問題は、FIFAがなぜ、そんなパイロム社に業務委託したのか」と指摘し、FIFAと業者の不透明な関係、とりわけブラッターFIFA会長とパイロム社の関係について焦点を当て「今回の異常な事態とFIFAの金権体質がからまりあっていることは、容易に推察される」とした。また、JAWOCなど両国の組織委員会についても、「日韓両国の組織委が協力し、今回の醜態の原因と責任を追及する。その連携も日韓共催の意義となる」と毅然とした対応を要求した(6月5日付)。また、7月1日付社説では、「チケッ

ト販売を対応したイギリスのパイロム社の能力不足が空席問題の原因であるのは明らかなのに、FIFA幹部からは、日韓両国の組織委に責任をなすりつける発言すらあった。あきれた体質というしかない。(中略)サッカーの世界的な広がり逆行するFIFAの独善性は、厳しく問われねばならない」と批判した。

『毎日』は『読売』と同様に、「国際サッカー連盟(FIFA)から、チケットの海外販売と印刷の委託を受けたのは、英国のパイロム社である。さしたる実績もないのに受注したのは、FIFA幹部との強いつながりがあるためとされる」とFIFAとパイロム社の関係について注目した。責任については、「第一義的に責任を負うべきは、パイロム社であり、FIFAである」と明確に記述している。また、JAWOCに対してもより機敏な対応を求め、「関係者はより多くの人にその機会(試合を間近でみる機会)を提供すべく最後まで努力をしてほしい」と記述し、観客の試合観戦の機会を求めている(以上引用はすべて6月6日付社説より)。

『産経』は、6月4日付社説で問題を取り上げた。ただし『読売』『毎日』に比べると責任の所在については不明確であり、空席の原因がパイロム社取り扱い分にあったということを記述するにとどまっている。しかしながら、『朝日』とは異なりブラッターFIFA会長とパイロム社との関係を言及した。また、JAWOCに関しては、「主体的に問題解決に当たるくらいの気持ちでFIFAに働きかけ、残った入場券を内外のサポーターの手に渡す方法を考えねばならない」という『毎日』と同じ態度にたっている(引用は6月4日付社説)。また『産経』は他紙とは異なり、「空席はチケットの追加販売に踏み切ることで改善された」(7月1日付)と

表5 各紙社説の論調比較

	W杯の意味	W杯と日本・日本人	日韓開催	空席問題	
				責任追及	JAWOC
朝日	スポーツの祭典	おおらかなナショナリズム	友好ムード	やや不明確	FIFAへの働きかけと責任追及
読売	両面性に注目	記述なし	新しい日韓関係へのステップ	明確	FIFAへの働きかけと責任追及
毎日	スポーツの祭典	積極的な若者論	友好ムード	明確	機敏な対応と事前交渉
産経	国家の利害に直結	国民意識の昂揚	日韓比較の視点	明確	折衷（FIFA働きかけ/販売対応）

「空席問題」はW杯期間中に解決したという見方をとった。

2 - 2 読者投稿欄

以下では、W杯期間中に読者から新聞各紙に寄せられたW杯に関する投稿について、読者投稿欄（『朝日』「声」、『読売』「気流」、『産経』「談話室」、『毎日』「みんなの広場」）の概要を示す。分析期間中のW杯に関する読者投稿欄の掲載数は、『朝日』13本、『読売』16本、『毎日』20本、『産経』20本であった。女性読者の割合は『朝日』が69.2%、『読売』が56.2%、『毎日』が40.0%（性別不明者一人は含まず）、『産経』は50.0%（性別不明者一人は含まず）だった。投稿掲載者の平均年齢は『朝日』が46.1歳、『読売』43.1歳、『毎日』51.7歳、『産経』49.7歳であった。各紙とも開催期間中は継続的にW杯に関する読者投稿を掲載している。

各紙の投稿内容を見てみると、『朝日』では試合に関するものが1本（6月1日付「W杯に期待はさわやかな試合」）、W杯を契機にした出会いに関するものが2本（6月5日付「大勢と出会い収穫の多いW杯」など）、日韓関係に関するものが4本（6月18日付「日韓に新時代訪問して実感」など）、愛国心に関するものが1本、また他方でW杯中心の報道に対する意

見・批判が2本、その他が4本だった。

『読売』では、試合に関するものが5本（6月2日付「W杯で日本の活躍期待する」など）、空席・チケット問題に関するものが2本（6月5日付「W杯空席問題手立て早急に」など）、サポーターに関するものが1本（6月13日付「応援と暴動は別物なのです」）、韓国対イタリア戦の後の騒ぎに対するものが1本（6月25日付「『解雇』発言幼稚すぎぬか」）、その他のものが7本だった。試合に関する投稿は、日韓・国際性・国民性など様々な視点から記述されていた。

『毎日』は、観戦の感動を述べるものが2本（6月22日付「W杯、おばさんも興奮、感動した」など）、「ニッポン」コールや「君が代」に関するものが3本（6月21日付「近所中の家からニッポンコール」など）、「在日韓国・朝鮮人」に関するものが1本（6月22日付「日韓交流の前に『在日』考えて」）、W杯後の展望など述べたものが2本（6月24日付「W杯後は現実に目を向けよう」など）、その他のものが12本あった。

『産経』は、愛国心や「ニッポン」コール、「君が代」、「日の丸」に関するものが5本（6月10日付「W杯で見た若者の愛国心」など）、日韓関係に関するものや国際交流に関するもの

が4本(6月8日付「文化の違いを理解しあおう」など), W杯中心の報道に対する意見が1本(6月12日付「スポーツより重大な事件が」), W杯全般にわたるようなことなど含めてその他10本であった。

次に, 各紙の読者投稿欄の内容であるが, 『朝日』では日韓関係やW杯の出会いを記述した投稿が多く朝日新聞の社説と同じような友好的な記述が多かった。

・「人間の喜怒哀楽を, これほど鮮やかに映像で伝える番組はほかにないと思った。(中略)サッカーの観戦も多用な仕方があると思う。オーバーに言えば, 本物の人間模様も繰り広げられるからだ」(6月15日付)

・「大戦を経験していない人が増加し, 世代交代が進んでいる現在, 新しい日韓時代が来ていることを私は今回の訪韓で実感した」(6月18日付)

・「前夜祭では, 初めて韓国で日本語の歌が正式に音楽番組で放送されたとか。なぜ日本語の歌が韓国では禁止されていたのかをこの時期に子どもたちに教えるべきなのではと思いました」(6月21日付)

・「為政者が国旗, 国家を強制しても得られなかったものが, ここでは自発的に, しかもほほえましい姿で存在している。おそらく, 同族に対する愛着と誇りこそが愛国心を生み出す資源なのだろう。(略)この国の将来を考えたとき, 自国へのしらせや無関心より健全な愛国心は有用だと思う。が, そのためには愛国心を超えた共生観を併せ持たねばならぬことを, W杯で改めて感じた」(6月28日付)

『読売』では, 空席・チケット問題に関する投稿や, 過激なサポーターに対する批判など, W杯を全面的に歓迎するだけでなく, 問題点を指摘した投稿が多く, 『読売』の問題提起型の社説と同様の傾向が見えた。

・「国際サッカー連盟(FIFA)の運営にはかなり問題があると思う。だがJAWOCには, 文字通

り体当たりで, 大会の100%成功する決意が欠けていたのではないか」(6月5日付)

・「自分とかかわりのある国を応援するのは当然だが, 世界の人々から満足してもらえるようすばらしい大会となるよう全日程を日韓両国民が協力していくようにしたい。友好に基づく日韓の新しい交流はそこから生まれるだろう」(6月6日付)

・「サッカーを愛する人たちにお願いです。応援と暴動を同じにしないで下さい」(6月13日付)

・「今回のワールドカップ(W杯)を熱心に応援するサポーターたちの映像を見るたび, この熱気, そのまま政治に向けることができないものかと思う。また, 若い人たちが中心の燃え滾るような情熱。この情熱を今の日本の政治に向けることが出来たら, 閉塞感の漂うこの国の政治に風穴, いやそれ以上に政治や国に大きな変化が起きるのにも思う」(6月27日付)

『毎日』の場合は, 応援などが中心だが全体として幅広い傾向が見られた。

・「W杯も大いに盛り上がり, 国際交流が叫ばれている今こそ, このような小さなコミュニケーションに目を向けて大切にしていってほしい」(6月12日付)

・「サッカーは, 戦争をスポーツ化したものである, というが, 国という存在, 帰属意識がなければ, これほどまでの興奮は生まれまいだろう, 良くも悪くも, これが実態である。」(6月19日付)

・「W杯の優勝がどの国であれ, 終了後は現実の世界に目を向けてほしい」(6月24日付)

『産経』は愛国心や「ニッポンコール」「君が代」「日の丸」に対して肯定的な投稿が多く, これは『産経』の社説の傾向と同じであった。

・「この細長い島国日本の南から北まで, うねりになって共鳴した心地よいリズム(「ニッポン, チャ, チャ, チャ」)は, 私の身体の中に残響となっています。(中略)これこそが日本民族のリズム, 万葉集のリズムでなくて, 何と言えましょうか」(6月24日付)

・『君が代』のメロディーは日本古来の音階からできており、見事に日本独特の個性を表現している。厳肅かつ荘重な曲想は、まさに国家にふさわ

しい。（中略）君が代斉唱に反対する人もいるが、誰がなんと言おうと君が代は名曲であることは確かだ。」（6月26日付）

表6 各紙のW杯関連読者投稿の一覧

新聞	日付	タイトル	年齢	住所	職業	性別
朝日	6/1	W杯に期待はさわやか試合	48	奈良県	高校教員	男
	6/5	大勢と出会い収穫多いW杯	43	和歌山市	主婦	女
	6/7	老人にとってW杯の反応は	66	大阪府守口市	主婦	女
	6/12	W杯への熱狂巧みな仕掛け	69	京都市	無職	男
	6/13	幼児伴う観戦目前で拒まれ	42	神奈川県平塚市	主婦	女
	6/15	人間観戦するにわかファン	77	大阪府泉大津市	主婦	女
	6/16	W杯機に願う温かい出会い	31	兵庫県明石市	主婦	女
	6/18	日韓に新時代訪問して実感	21	兵庫県尼崎市	大学生	男
	6/19	驚かされます選手の体力面	31	和歌山県海南市	主婦	女
	6/21	W杯見ながら思いは過去へ	36	香川県	パート	女
	6/26	日本負けたが韓国頑張れ！	21	京都市	大学生	女
6/26	日本の喜びを共に喜べる私	42	京都府宇治市	韓国語講師	女	
6/28	W杯で考えた愛国心	47	京都市	団体職員	男	
読売	6/2	W杯で日本の活躍期待する	22	和歌山県橋本市	大学生	男
	6/5	W杯空席問題手立て早急に	69	埼玉県熊谷市	団体役員	男
	6/6	TVで見た素朴な疑問は	38	兵庫県明石市	主婦	女
	6/6	日韓共催機に国際感覚磨け	34	大阪府枚方市	公務員	男
	6/7	日韓の勝ち点感慨ひとしお	47	千葉県船橋市	会社員	男
	6/8	熱戦に水差すチケット問題	45	東京都世田谷区	文筆業	男
	6/11	W杯で初勝利次は16強へ！	64	愛媛県新居浜市	主婦	女
	6/12	夢に終わった家族での観戦	28	千葉県四街道市	主婦	女
	6/13	応援と暴動は別物なのです	38	大津市	主婦	女
	6/14	ボールを縫う子どもを思い	41	鳥取県八頭郡	公務員	男
	6/18	決勝Tに進出輝く選手たち	41	大阪府枚方市	パート	女
	6/20	ありがとう！青き戦士たち	43	大阪市	会社員	女
	6/21	ドイツ大会でさらに上位を	33	東京都武蔵野市	会社員	男
	6/25	「解雇」発言は幼稚すぎぬか	29	大阪府柏原市	パート	女
6/27	W杯への情熱今度は政治に	64	松山市	主婦	女	
6/29	日本活躍の因底辺の広がり	53	静岡県浜松市	塾講師	女	
毎日	6/5	W杯は日本を知ってもらおう好機	35	ドイツ	主婦	女
	6/11	W杯来訪者に人のぬくもりも	47	札幌市豊平区	主婦	女
	6/12	「ありがとう」と一言なぜ言えぬ	25	千葉市中央区	大学院生	女
	6/12	W杯 外国人の評価が気掛かり	21	東京都目黒区	大学生	男
	6/14	W杯 素晴らしいカラー写真	52	大阪府堺市	会社員	男
	6/19	忘れまい 日本で応援した日	56	広島市佐伯区	自営業	男
	6/21	近所中の家からニッポンコール	17	千葉県船橋市	高校生	女
	6/22	W杯 おばさんも興奮、感動した	65	福岡県宗像市	主婦	女
	6/22	W杯に夢中になっている間に・・・	45	栃木県小山市	教員	男
	6/22	日韓交流の前に「在日」考えて	34	千葉県松戸市	アルバイト	女
	6/22	日本はニッポンに統一したい	70	埼玉県小川町	版画家	男
6/23	W杯 君が代への信条まげない	57	長崎県田平町	教員	不明	
6/23	若者に「ニッポン」意識させた	72	静岡県沼津市	無	男	

毎日	6/23	世界地図でW杯参加国を調べた	64	東京都板橋区	会社員	男
	6/24	W杯後は現実に目を向けよう	60	北海道滝川市	無職	男
	6/24	「ええじゃないか」の再来感じた	68	山口県下関市	無職	男
	6/24	ゴールキーパーもヒーローだ	43	奈良県生駒市	主婦	女
	6/29	感涙 W杯で一つになった日本	77	水戸市	無職	男
	6/29	プロ野球 改革しなければ退潮	83	千葉県睦沢町	無職	男
	6/30	W杯 真の収支決算はこれから	44	新潟県長岡市	主婦	女
産経	6/7	沖縄には少ないW杯の恩恵	37	沖縄県糸満市	自営業	不明
	6/8	文化の違いを理解しあおう	34	大阪府羽曳野市	韓国語教師	女
	6/8	新しい情報を自ら求めたい	20	千葉県流山市	大学生	男
	6/10	W杯で見えた若者の愛国心	82	横浜市中区	無職	男
	6/11	チケット騒動有事の教訓に	31	東京都八王子市	会社員	男
	6/12	W杯で久しぶりに明るい熱狂	75	東京都東村山市	無職	男
	6/12	スポーツより重大な事件が	35	東京都世田谷区	派遣社員	女
	6/14	日韓両国の理解と信頼深める努力を	69	東京都墨田区	会社顧問	男
	6/17	W杯の観戦には世界辞典が必携	69	大阪府熊取町	無職	女
	6/19	「報復」の表現W杯に場違い	40	東京都江東区	団体職員	男
	6/20	日本の国の良さ誇りにできれば	17	横浜市西区	高校生	女
	6/20	努力と成果にW杯さわやか	38	京都市北区	主婦	女
	6/21	感動のW杯をありがとう!!	49	東京都日野市	主婦	女
	6/24	ニッポンコール民族のリズムだ	70	東京都品川区	塾主宰	男
	6/26	君が代は名曲W杯で再確認	34	兵庫県西宮市	ピアノ教師	女
	6/26	「悔しがる」若者たちに期待	42	長野県須坂市	公務員	女
	6/27	ガンバレより「祈ってます」	59	東京都世田谷区	主婦	女
6/27	違和感覚えた日本代表選手の金髪	51	大阪府豊中市	自由業	女	
6/28	反「日の丸」はW杯で崩れた	59	千葉県船橋市	自営業	男	
6/29	球児の殿堂も禁煙にしたら	80	大阪府吹田市	元教員	男	

・「自国の国旗，国家を嫌うのは偏狭な歪曲平和主義者たちだけだ。日の丸，君が代は彼らに勝利したのである」(6月28日付)

以上のように新聞各紙のW杯関係の読者投稿欄の掲載内容と，各紙の社説・主張との間には一定の連関があると指摘できるが，そのプロセスの究明については今後の課題としたい。

おわりに

本稿は，2002W杯をメディア・イベントの観点から捉え，日本国内の地上波放送，新聞によるW杯報道の全体像を明らかにすると同時に「W杯の意味」をめぐる多様な声のせめぎあいの状況を把握するための基礎資料としての性格

を持つ。これまでも，本稿の問題意識の背景にある「メディア・イベントとナショナル・アイデンティティおよび他者認識とのかかわり」の問題については，多くの議論がなされてきたが，その多くは単一のメディアや特定の番組を対象にしたものであった。しかし，現実にはわれわれは，テレビ，新聞，雑誌，インターネットなど複数にわたるメディアを介してイベントを経験している。こうしたことを鑑みると，われわれが「メディア・イベント」という視野を用いて研究を行おうとするとき，複数のメディアにわたって多様な言説を確認する必要があるのではないだろうか。テレビでの経験が離れている人々に共有体験をもたらす，「われわれ」としての集合的アイデンティティを強化し，また

他者との境界を確認させる作用を発揮するとしても、その作用のプロセスには、たとえば新聞や雑誌メディアがその共通体験の意味を解釈していくメディア言説が関わっているに違いない。もちろん、その解釈行為は一つの方向性を持つ場合もあれば、全く正反対の解釈がなされる場合もあり、そこではまさに「意味解釈のポリティックス」が繰り広げられているのである。われわれが新聞の社説欄や読者投稿欄に注目したのは、「W杯の意味」をめぐる様々な声のせめぎあいを読むに相応しいと判断したからである。

今後は、大衆雑誌やスポーツ新聞などの大衆レベルの視点からのメディア言説の整理と、これらのデータをもとに多様なメディア言説のポリティックスを明らかにする作業や、人々がメディアのメッセージをどのように受け止めて、解釈していったのかについて議論を展開していきたい。また、同じような問題の設定を韓国におけるメディア言説にも適用していく作業にも取り組んできたので、別の機会に発表していきたい。

注

- 1) 2002年W杯開幕を目前に、ISL社を傘下におくISMMグループは2000年度決算で債務超過に陥り、事実上経営破たんし、結局、FIFAの受け皿会社、FIFAマーケティングが業務を引き継ぐと発表した。（以上、『朝日新聞』2001年5月22日付）
- 2) 詳しくは、『月刊民放』（日本民間放送連盟発行）2002年9月号の特集「W杯サッカーと放送」および『放送技術』（兼六館出版）2002年10月号の特集「2002ワールドカップ中継のすべて」を参照。
- 3) 本研究では、テレビ番組の編成の分析に当たって、新聞の「ラジオ・テレビ欄」（ラ・テ欄）

の記載情報を分析材料として用いている。その理由としては、日本の新聞のラ・テ欄が極めて丁寧に番組の情報を掲載している点を最初にあげられる。また、日本の新聞のラ・テ欄の掲載内容は放送局自らが原稿を作成し、新聞に掲載する仕組みとなっているために、番組の内容のうち最も視聴者にアピールしたいメッセージを「精選」したものであるとも解釈できる。以上の理由から、放送時間数などを「客観的」に把握することが極めて困難な場合、放送の内容を質的に分析するためにラ・テ欄の情報が有効な分析素材となりうると判断した。ちなみに、「ラ・テ欄」は、新聞社としては、販売戦略の一環として、また読者サービスとして位置づけられており、放送局にとっては、掲載面積に対応する費用を負担することなく、自局番組の広報的役割を果たす、きわめて便利な存在である。「ラジオ・テレビ欄」研究の例としては、服部孝章・服部研究室（1992）『応用社会学研究』立教大学社会学部、第34号、239-255頁を参照。

- 4) なお、『読売』のスポーツ報道が全体として冷静かつ客観的ではないことは言うまでもなからう。この問題については、プロ野球報道、とりわけ系列子会社である「読売ジャイアンツ」をめぐる報道との比較の視点が欠かせないことを指摘しておきたい。

【参考文献】

- 阿部潔（1999）「オリンピック女子マラソンは何を語ったか」伊藤守・藤田真文編著『テレビジョン・ポリフォニー：番組・視聴者分析の試み』世界思想社、pp.108-130.
- Dayan, Daniel & Elihu Katz (1992). *Media Events: The Live Broadcasting of History*, Cambridge: Harvard University Press. 浅見克彦訳（1996）『メディア・イベント 歴史をつくるメディア・セレモニー』青弓社
- 黄盛彬（2003）「2002W杯と日本の自画像、そして韓国という他者」『マスコミュニケーション研究』第62号、pp.23-39
- 黄盛彬（2002）「2002W杯と韓日関係」『寛薫ジャー

ナル』2002年冬号, pp.73-85. (原文は韓国語)
 黄盛彬 (2002) 「2002W杯はどのように語られたか
 『日韓比較』の比較: 1996年共催決定から2002
 開幕まで」『立命館大学人文科学研究紀要』第
 81号, pp.25-54.
 黄盛彬 (2002) 「検証・日韓W杯報道(下)」『放送レ
 ポート』メディア総合研究所発行, 第179号
 (2002年11月), pp.34-37
 黄盛彬 (2002) 「検証・日韓W杯報道(上)」『放送レ
 ポート』メディア総合研究所発行, 第178号

(2002年9月), pp.12-15.
 吉見俊哉 (1996) 「メディア・イベント概念の諸相」
 津金澤聰廣 [編著] 『近代日本のメディア・イベ
 ント』同文館, pp.3-30
 藤竹暁 (1996) 「メディア・イベントの展開とニュー
 ス概念の変化」『マス・コミュニケーション研究』
 第48号, pp.3-19.

* 本稿は, 2002年度立命館大学産業社会学会研究助
 成による研究成果の一部である。

表7 W杯試合日程および中継放送チャンネル

日付	曜日	イベント・試合	会場	地上波	BSデジタル	平均世帯 視聴率 (%) 関東	平均世帯 視聴率 (%) 関西
5月31日	金	ワールドカップ開幕式				25.2	
		グループ予選開始					
		フランス VS セネガル	ソウル	NHK総合	NHKハイビジョン	35.9(29.2)	
6月1日	土	アイルランド VS カメルーン	新潟	NHK総合	NHKハイビジョン	18.5	
		ウルグアイ VS デンマーク	蔚山	-	-		
		ドイツ VS サウジアラビア	札幌	NHK総合	NHKハイビジョン	21.9(22.5)	
6月2日	日	アルゼンチン VS ナイジェリア	茨城	NHK総合	NHKハイビジョン	17.8	
		パラグアイ VS 南アフリカ	釜山	-	-		
		イングランド VS スウェーデン	埼玉	NHK総合	NHKハイビジョン	30.5(22.4)	
6月3日	月	スペイン VS スロベニア	光州	TBSテレビ系	BS-i	18.6	
		クロアチア VS メキシコ	新潟	-	-		
		ブラジル VS トルコ	蔚山	-	-		
6月4日	火	イタリア VS エクアドル	札幌	NHK総合	NHKハイビジョン	26.2(25.4)	
		中国 VS コスタリカ	光州	-	-		
		日本 VS ベルギー	埼玉	NHK総合	NHKハイビジョン	58.8 (16.1 43.1)	50.7(38.2)
6月5日	水	韓国 VS ポーランド	釜山	フジテレビ系	BS-フジ	22.2	
		ロシア VS チュニジア	神戸	-	-		
		アメリカ VS ポルトガル	水原	-	-		
6月6日	木	ドイツ VS アイルランド	茨城	NHK総合	NHKハイビジョン	25.2(23.9)	
		デンマーク VS セネガル	テグ	-	-		
		カメルーン VS サウジアラビア	埼玉	-	-		
6月7日	金	フランス VS ウルグアイ	釜山	テレビ朝日系	BS朝日	29.5	
		スウェーデン VS ナイジェリア	神戸	-	-		
		スペイン VS パラグアイ	全州	-	-		
6月8日	土	アルゼンチン VS イングランド	札幌	TBSテレビ系	BS-i	41.6	
		南アフリカ VS スロベニア	テグ	-	-		
		イタリア VS クロアチア	茨城	テレビ東京系	BSジャパン	16	
6月9日	日	ブラジル VS 中国	西帰浦	TBSテレビ系	BS-i	26.6	
		メキシコ VS エクアドル	宮城	NHK総合	NHKハイビジョン	10.8	
		コスタリカ VS トルコ	仁川	-	-		
		日本 VS ロシア	横浜	フジテレビ系	BSフジ	66.1	58.1

6月10日	月	韓国 VS アメリカ	テグ	-	-		
		チュニジア VS ベルギー	大分	テレビ東京系	BS ジャパン	14.2	
		ポルトガル VS ポーランド	全州	NHK 総合	NHK ハイビジョン	20.1(18.1)	
6月11日	火	デンマーク VS フランス	仁川	-	-		
		セネガル VS ウルグアイ	水原	-	-		
		カメルーン VS ドイツ	静岡	日本テレビ系	BS 日テレ	30.8	
		サウジアラビア VS アイルランド	横浜	-	-		
6月12日	水	スウェーデン VS アールゼンチン	宮城	-	-		
		ナイジェリア VS イングランド	テグ	NHK 総合	NHK ハイビジョン	11.3(8.6)	
		南アフリカ VS スペイン	大田	NHK 総合	NHK ハイビジョン	23.2(20.9)	
		スロベニア VS パラグアイ	西帰浦	-	-		
6月13日	木	コスタリカ VS ブラジル	水原	-	-		
		トルコ VS 中国	ソウル	-	-		
		メキシコ VS イタリア	大分	NHK 総合	NHK ハイビジョン	31.1(23.9)	
		エクアドル VS クロアチア	横浜	-	-		
6月14日	金	チュニジア VS 日本	大阪	テレビ朝日系	BS 朝日	45.5	44.3
		ベルギー VS ロシア	静岡	-	-		
		ポルトガル VS 韓国	仁川	日本テレビ系	BS 日テレ	32.6	
		ポーランド VS アメリカ	大田	-	-		
6月15日	土	決勝トーナメント開始 (BEST16)					
		ドイツ VS パラグアイ	西帰浦	NHK 総合	NHK ハイビジョン	20.8(16.5)	
		デンマーク VS イングランド	新潟	日本テレビ系	BS ジャパン	32.1	
6月16日	日	スウェーデン VS セネガル	大分	NHK 総合	NHK ハイビジョン	21.6	
		スペイン VS アイルランド	水原	NHK 総合	NHK ハイビジョン	34.1 (25.9, 33.7)	
6月17日	月	メキシコ VS アメリカ	全州	NHK 総合	NHK ハイビジョン	11.9(7.3)	
		ブラジル VS ベルギー	神戸	NHK 総合	NHK ハイビジョン	34.8(31.1)	40.6(37.5)
6月18日	火	日本 VS トルコ	宮城	NHK 総合	NHK ハイビジョン	48.5(45.3)	
		韓国 VS イタリア	大田	テレビ朝日系	WOWWOW	35.4	
6月21日	金	BEST8					
		イングランド VS ブラジル	静岡	NHK 総合	NHK ハイビジョン	28.9(19.8)	
		ドイツ VS アメリカ	蔚山	NHK 総合	NHK ハイビジョン	32.2(27.1)	
6月22日	土	スペイン VS 韓国	光州	NHK 総合	NHK ハイビジョン	28.7	
		セネガル VS トルコ	大阪	TBS テレビ系	BS-i	27.7	
6月25日	火	準決勝					
		ドイツ VS 韓国	ソウル	日本テレビ系	BS ジャパン	48.3	
		ブラジル VS トルコ	埼玉	NHK 総合	NHK ハイビジョン	47.6(39.1)	
6月29日	土	3位決定戦					
		韓国 VS トルコ	テグ	フジテレビ系	WOWWOW	33.0	
6月30日	日	優勝チーム決定戦					
		ブラジル VS ドイツ	横浜	NHK 総合	NHK ハイビジョン	65.6(50.2)	61.2(46.4)
ワールドカップ閉幕式							

* 試合途中ニュースが入った番組は試合後半時の平均視聴率を記載。括弧内は前半時の平均視聴率

* 日本戦と決勝戦のみ関西地区の平均視聴率を記載

注) テレビ中継チャンネル欄で空間になっている試合は、すべて「スカイパーフェクトTV」のみの放送。
視聴率データはビデオリサーチ社HPより

The 2002 World Cup and Media Coverage in Japan

HWANG Seongbin *

NAKAMURA Aya **

Abstract: The 2002 World Cup was the first such championship to be held in Asia, and the first co-hosted by two countries, Korea and Japan. In both countries, a variety of media discourse concerning the World Cup was produced not only in the coverage of the World Cup itself and associated sports programme, but also in many TV shows and popular magazines in which football had hardly ever been featured previously.

As for these items of media discourse, we propose that attention must be paid to the function which constructs “national identity,” the self-portrait, positive through the “Other’s” image as the negative, as well as the function which reinforces stereotyped images about race, nation, ethnicity, gender and so on. Mega sporting events like the World Cup may be an arena where we can observe the politics connected with “national identity” and “Otherness,” not only on the football field but also in newspapers and on television screens.

In this paper, explanations of some aspects are offered, as follows:

- An outline of the Japanese media coverage of the 2002 World Cup.
- The meaning of co-hosting the 2002 World Cup, as expressed in Japanese media coverage.
- Methods that the Japanese media used to represent an image of the “World Cup,” – for example “World Cup fever,” “play styles,” etc.
- How the relations between Japan and South Korea were explained. The kind of influence that was articulated regarding “the relations of both countries” by co-hosting the World Cup.

Although we recorded the programme of the Opening and Closing Ceremonies, almost all matches and reviews of highlights and relevant material broadcast in free-to-air form in each country during the 2002 World Cup finals, in this paper, we mainly focus on some TV shows, and editorials and reader’s columns in the major Japanese newspapers such as the *Asahi*, the *Yomiuri*, the *Mainichi*, and the *Sankei*.

Keywords: Media Event, Media Discourse, FIFA World Cup, the Relationship between Japan and Korea, National Identity

* Associate Professor of the Faculty of Social Sciences, Ritsumeikan University

** Graduate Student, Graduate School of Sociology, Ritsumeikan University